

1. 調査報告概要表

作成日平成20年 3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 2072501170
法人名	社会福祉法人みなみ信州
事業所名	グループホームあぐり河野
所在地	長野県下伊那郡豊丘村河野1669番地3 (電 話) 0265-56-8525

評価機関名	NPO 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307番地5
訪問調査日	平成20年3月13日

【情報提供票より】(20年 1月 24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 16 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 8.5

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000	円	

(4) 利用者の概要(1月 24 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	6 名	要介護2	0 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	68 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	下伊那厚生病院、JAみなみ信州歯科診療所、吉川医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

かつて交流の場であった農協の店舗跡に地域の要望を受け、2年前に「あぐり河野」が設立された経緯からも、地域住民の支援と愛着が強く感じられるグループホームである。日常的なつきあいや小・中学校の子ども達の訪問・地域のボランティア活動ばかりでなく、ホームの「納涼祭」などには住民の協力や参加が多くある。運営推進会議には、利用者代表のみならず、ボランティア・近隣協力員や消防団・高齢者クラブなどを含め多くの参加者があり、強力な支えがある。それに応えるように、手書きの楽しい「あぐり河野便り」を4000部発行し、村全戸に配布していることから、まさに地域に根ざしているグループホームである。また、施設に入ってくると中央に広いホールがあり、食事をするテーブルや椅子の他に大きな炬燵があって、折り紙や塗り絵などが楽しめる空間になっている。片隅の事務スペースや台所からいつでも職員が温かく見守っている、家庭的なグループホームでもある。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で、「個別の記録についても介護計画を意識した記録方法をとっていかれるとよい。」と指摘された点は、「介護明細」の記録に改善されている。また、「入浴の回数がだいたい決まっているようなので、希望があれば入浴できるようにしていかれるとよい。その際、過去の入浴習慣を探ったり、希望が出しやすいように工夫していったほしい。」という点についても、希望を活かし、入浴回数も増やして改善してきている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価に取り組み、前回の外部評価の結果を活かすだけでなく、さらにサービスの質の向上を目指すとする、積極的な取り組みをしてきている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、地域の様々な関係者が多数参加する中、活動の様子をきめ細かに報告し、理解を得ている。そのため、話し合いの結果がホームの取り組みにすぐ反映できている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見・苦情などについては、管理者・ホーム長を中心にして、そのつど対応している。さらに、家族会の話し合いを工夫して、意見・苦情をより広く聞きたいと、検討を進めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日ごろから、地域のボランティアの活動や地元小学校・保育園・児童クラブとの交流が大変盛んで、近隣の協力員の支援もあるグループホームである。このような特色を活かしたホームの「納涼祭」は活況を運び、また、村全戸に配布する手書きの「あぐり河野便り」は、地域との連携の要となっている。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本年度再検討し、「あぐり河野」の独自の理念として「利用者や家族の尊厳や願いを尊重し、その人らしく自立に向けて支援して、ケアのあり方や役割を地域へ発信し地域で支えるまちづくりに貢献する」と掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	パンフレットに掲げるばかりでなく、ホールに大きな文字で掲示し、職員や利用者がすぐ見てわかりやすくなっている。そして、「ケアの法則」として7項目あげ、理念の実現に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアの協力があり、小学校・中学校・保育園・児童クラブとの交流が盛んである。また、ホームの納涼祭にはとても多くの地域住民の支援がある。これからは、ホームが自治会の清掃や高齢者クラブ参加など主体的に関わっていくことも必要だと前向きに考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	本年度の自己評価は職員全員で取り組んできている。この評価の結果を活かし改善計画を作成していく方針である。また、前年度の外部評価で指摘された点については、改善策を検討してきている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に、利用者や家族ばかりでなくボランティア代表・区長・民生児童委員・村会議員・高齢者クラブ会長・保健協力員・消防団員・近隣協力者・地域包括支援センター職員・JA関係者と、幅広く地域の方が参加している。また、活動報告などが具体的であり、ベランダからの避難路がほしい、といった話し合いではスロープを作り、成果をあげることができた。		

グループホーム あぐり河野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員・社会福祉協議会の職員との連携を密にして、ホームに訪問してもらったり、ホームから相談や情報をえるように伺ったりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりのホームでの様子や金銭管理については、毎月の便りなどで知らせたり、その時々々の面会時にも話している。また、「あぐり河野便り」を発行し、村全戸に配布して啓発・広報している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見や苦情は、管理者やホーム長が窓口となって、聞き出し、対応できるようにしている。		年2回開いている家族会で、職員が座を外し家族同士で話し合う機会を設けて意見を運営に反映したい、との意向がある。実現を期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	また、職員の異動・離職はない。職員に勤務時間の希望を十分聞き、離職がないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や内部の研修を計画し、非常勤の職員でも研修できるようにしている。また、研修内容を共有できるように報告する機会を設けている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯田下伊那地区グループホーム連絡会に参加し、意見交換・相互訪問しながら、サービス向上を目指している。3月には、「介護記録」について、話し合ってきた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族にホームの見学や入所体験をしてもらったり、事前に職員が訪問したりして、雰囲気を感じ、生活に馴染めるようにしている。入居後も家族に来てもらい精神的なフォローをするようにしている。</p>		<p>本人に十分納得してもらうことは難しいと考えているので、見学・訪問などを今以上に増やして対応したい、との意向があり、実現を期待したい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は常に利用者と一緒にお茶を飲み・食事をしたり、買い物したりして、利用者の気持ちに共感し、理解するように心がけている。そして、人生の先輩として昔話を聞いたり、教えてもらった後には、感謝の言葉を忘れないようにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの希望や意向を普段から把握することに努め、困難な場合は、家族などから情報を得たり、生活歴などから探ったりして、利用者本位に考えている。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は利用者本人や家族の希望や意向を基に、職員会議やケア会議で話し合っ決めてようしている。そのとき、問題解決的な計画でなく、利用者本人ができること、生きがいなどを目標とした計画になるよう考えている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者一人ひとりの介護の記録(介護明細)を活かし、3か月に1回、緊急を要する場合はその都度見直し、モニタリングして再評価し、介護計画を見直している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、病院への送迎、付き添いを行う時もある。また、訪問看護ステーションと契約して、医療連携体制を活かしたサービスも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医に往診してもらったり、家族と一緒に受診してもらったりしている。家族が同行できない場合は職員が代行する時もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化して看取ることが必要になった場合があったが、家族・医師と相談して入院となった。重度化や終末期に向けたマニュアルを再度見直し作成中である。		医療連携体制をとっているため、その重度化対応・終末期ケア対応指針を基に、マニュアルを早急に整備されることを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	年2回、法人全体でコンプライアンス(法令遵守)研修を行い、プライバシーの尊重について話し合っている。また、普段の生活の中で、言葉や対応に留意するように心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れのもとに、利用者本人の希望を聞きだしながら、本人のペースで生活するよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と献立を考え買い物し、調理したり、後片付けをしたりして、できるだけ一緒にするように働きかけている。そして、テレビを消して、会話しながら食事を楽しむようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望を聞いて、2日にあるいは3日に1回、昼食後から夕食前までに入るようにしている。入浴時は職員とのコミュニケーションを大切に、ゆったり楽しむことができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに、今日はどのようにしましょうか、と声かけ、希望を聞いて、本人の活力を引き出すような楽しみ・役割を、負担にならないように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の様子によって、一緒に買い物に出かけたり、公園に散歩に出かけたりと、戸外に出かけるられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・ベランダ・居室には鍵をかけないようにしている。また、玄関のチャイムに頼らないよう、職員みんな注意している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は定期的に年4回、併設の居宅介護支援事業所等との協力のもと、行っている。そして、地元の消防署の指導の下、消防団や近隣の協力員の協力も得て、行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士の指導を受け、食事の量や栄養バランス・水分摂取量に配慮した献立を作成し、食後は「介護明細」に記録して、留意している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホームの中央にとっても広いホールがあり、床には、座って食事などができるテーブル・椅子があり、畳敷きの場所には、とても大きな炬燵が備えられている。窓の外には、木製の広いベランダが張り出されている。利用者が自由に過ごせるように工夫された空間になっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>どの居室も、利用者の使い慣れた物が備えられており、家族など写真が飾られ、自宅での生活とあまり変わらない、居心地のよい空間となっている。</p>		